



二つの才能、一つの家族愛。

「前回よりも結果を出したい！」毎年行われる空手の全国大会に連続出場する兄弟がいます。目指すところは兄弟そろっての優勝。ご両親からの愛情を背負い、2人はさらなる高みへ突き進みます。



空手の出会い

大竹峻太さんが6歳の頃、お父さんが「武道を習わせたい」と思い、一緒に空手を始めたことがきっかけでした。その後、隼豪さんも6歳になり、3人で空手を習うように。さらにその

後、付き添いで3人の姿を見ていたお母さんも、空手の魅力に惹かれ、今は家族4人で稽古に励んでいます。

峻太さんは「一緒に稽古をしていく父や母から、自分の改善点を指摘してもらえるので、さらに頑張ろうと思うし、ありがたいです。とても刺激になります」と話してくれました。

空手の魅力

空手には「形」と「組手」があります。

「形」は仮定の敵と戦うことを前提とした競技です。突き、蹴りの力強さやスピードなど、迫力ある演武が見どころです。

「組手」は人と相対した競技です。間合いを取りながら繰り出される突きや蹴りが、相手を確実にとらえる一瞬が見どころです。

今年も県大会を勝ち抜き、8月に宮城県で行われる全国大会には、峻太さんは「形」、隼豪さんは「組



手」に出場します。

ご両親の思い

お父さんは「見た目の強さではなく、どんな逆境にも負けない強い心を持つてほしい」、お母さんは「何事にも動じない平常心、冷静さ、精神的なたくましさを持つてほしい」と、空手の鍛錬を通して、心を磨くことが子どもたちにとって大切な事だと話してくれました。

全国大会へ

「全国大会では、今まで以上の結果を出せるように頑張りたい」峻太さんと隼豪さんは、そう話します。今は、全国大会での優勝を目指して、家族一丸となって日頃の稽古に励んでいます。

それがどのような結果であろうとも、さらにその先を目指す強い「心」を、大竹一家は持っています。

編集後記

昭和26年に設立された鶴ヶ島市茶業協会。以来、お互いに切磋琢磨しながらお茶づくりに取り組んできました。一年で一番忙しい時期に、取材に協力してくれた茶業協会の皆さん、ありがとうございました。茶業協会の皆さんが作った自慢のお茶を、さあ！一緒に味わってみませんか。新茶キャンペーンでお待ちしています。ご意見・ご感想は秘書広報課広報広聴担当へ
 ☑ 10200001@city.tsurugashima.lg.jp



笑顔の天使



“いつも仲良し♡”

きむらけいご
 木村圭吾ちゃん(左:4歳2か月)
 ゆいの
 唯乃ちゃん(右:6歳5か月)

